

道 徳 の 時 間

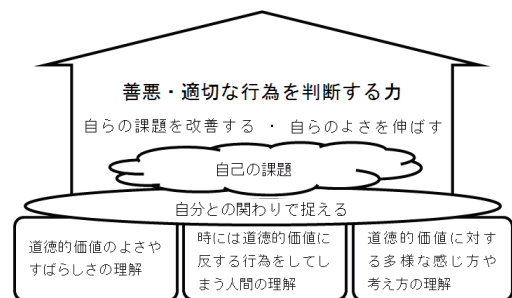
1 育成したい「思考力」

道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、さまざまな状況下において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に判断する力

道徳の時間においては、例えば「友達と仲よくすることの大切さ」といった、人間としてよりよく生きる上で大切なことを、本当に大切だと理解することが必要である。一方で、友情の大切さは理解していても、時には友達を傷つけてしまう発言をしてしまうことや、友達のためにと考えて行動する過程において、考え方や行動は多様であることを理解することも重要である。このような道徳的価値の理解とともに、道徳的価値を自分との関わりで捉えることで、子ども自身が問題を明らかにし、自らの課題を改善したり、自らのよさを伸ばしたりしていくのである。

道徳の時間において育成したい「思考力」とは、子どもたちが道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深めていく中で育成されるものであり、将来にわたってさまざまな場面で善悪を判断したり、人間としてどのように対処することが望まれるかを判断したりする力である。

以下に、第2学年の実践を基に、育成したい「思考力」について示す。



第2学年「友達っていいな ―『泣いた赤おに』―」

【育成したい「思考力」】

友達を思ったり、友達が自分を思ってくれていることに気付いたりすることで、友達に対する思いを深め、より友達を大事にしようとする力

まず、赤鬼が村人と仲よくなった時の「ありがとう」という青鬼への気持ちと、手紙を読んだ時の「ごめんね」という青鬼への気持ちを表出させ、それらを左右に並べて板書し、対立軸を明確にした。その後、「いなくなった青鬼さんにどちらのことばを伝えたいですか。」と問いかけ、自分の気持ちに近い方を選ばせたのである。その際、「ありがとう」という気持ちは強いが「ごめんね」の気持ちもある、という複雑な心情を表出できるように、青鬼に対する「ありがとう」の気持ちを黄で、「ごめんね」の気持ちを緑で表すことのできる「ハートカード」を用いた。そうすることで、互いの色の割合の違いから赤鬼の心情の違いが明らかとなり、「なぜ自分と違うのだろう、考えを聴いてみたい。」と、対話への意欲が育まれていった。そして、自分が考えた赤鬼の心情を友達に伝えることで、赤鬼の青鬼に対する深い気持ちに気付いたり、友達の考えを聴くことで赤鬼のことを大事に思っている青鬼の気持ちを感じたりすることができた。このように友達の大切さについて考えを深めることで、今後出合うさまざまな場面において友達の思いを大事にしながら、自らどのような行動をすればよいのか判断できるようになるのである。



【ハートカードと、対立軸を明確にした板書】

子どもたちは、赤鬼と青鬼の立場になって、友達を思うとはどういうことなのかを対話を通して考え、学習を進めていった。つまり、資料の中の人物の思いに迫ることで自分の考えや思いを見つめ直し、自らの課題として考えを深めていくことにつながったのである。道徳の時間においては、資料の中の人物

に自分を重ね合わせて自らの課題を捉え、他者との対話を通して考え続けていく子どもを育成していきたい。

本年度は、「学習意欲を育てること」、「他者と協働しながら考え続ける力を育むこと」の2点を大切に授業づくりを行っている。以下に、授業における働きかけについて示す。

（１）学習意欲を育てるための働きかけ

資料中の人物の心情を読み取るだけでは自らのこととつながらず、学習意欲が持続しないため、「思考力」の育成にもつながらない。資料中の人物に自分を重ね合わせながら、子ども自身が自分と資料をつないで課題を捉え、考えられるようにすることが必要である。さらに、学習を通して成長した自分に気づき、道徳の時間で学んだことを生活全般へと広げていけるようにすることが重要である。

- ① 体験的活動を生かしたり、写真や図等の視覚的な支援によって経験を想起させたりすることで、子ども自身が自分と資料をつなぎ、自らのこととして考えを深められるようにする。
- ② 道徳ノート等による自己評価や相互評価を学習活動や生活場面に継続的に位置づけるとともに、視覚的に捉えやすくする等の評価方法の工夫によって、子どもたちの学習意欲を育てる。

以下に、道徳カードによる自己評価によって学習意欲を育てた②の例を示す。

第3学年 道徳カードへの記録と活用

「大きい心の持ちぬしになろう」という年間の学級目標に対して、道徳カードに記録していった。カードには、道徳の時間での毎時間の記録に加えて、学校生活で子ども自身が心の成長を感じた内容（学校行事や当番活動等）について、自由に記録できるようにした。その際、道徳の時間の振り返りで行っている自分の心の成長具合を示す「心レベル」を位置づけ、視覚的に捉えられるようにした。また、子どもが記述した道徳的価値に関わる内容について、教師が勇気づけ励ますことばを書いて返した。それにより、子どもは、自分の心の成長が道徳カードへ蓄積されていくことに喜びを感じ、道徳的価値を自分との関わりで捉えながら、学習を進められた。

大きい心の持ちぬしになろう！			
日時	出来事	心レベル	大きい心で頑張ろう
6/3	おやじのバレー	1	おやじのバレーで頑張った。みんなと協力して頑張った。みんなの笑顔が嬉しかった。
7/12	電車の駅で ごみを拾った	2	電車の駅でゴミを拾った。みんなの笑顔が嬉しかった。みんなの笑顔が嬉しかった。
		3	

【自己の成長を実感できる道徳カード】

（２）他者と協働しながら考え続ける力を育むための働きかけ

互いの考えや思いを伝え合うことで、道徳的価値の自覚が深まっていく。道徳の時間においては、対話こそが他者との協働の中心である。そのため、互いの考えを深めるために質問し合えるようにすることや、異なる考えを互いに表出し、主張し合えるような雰囲気づくりが重要である。

- ③ アンケート等により、結果の否定的側面に留意しながら、集団内の多様な立場の存在を明らかにすることで、対話への意欲を育み、他者と協働して考え続けられるようにする。
- ④ 対立軸を明確にして選択を促す発問を行うことで、迷いを実感したり、多様な価値観を比較したりできるようにする。

先の第2学年の例では、赤鬼の青鬼に対する二つの気持ちを対立軸として対話を進めており、④の働きかけに当たる。

なお、教師による評価に生かすために、道徳の時間で子どもたちが記述したことに加え、学校行事や日々の生活での気づきを道徳ノート等に記述させたり、付箋に書いて貼らせたりして、「長期エピソード」として蓄積している。そして、月や学期ごとの長期的な振り返りによって、子どもたちの気づきを深め、評価していく取り組みを進めている。